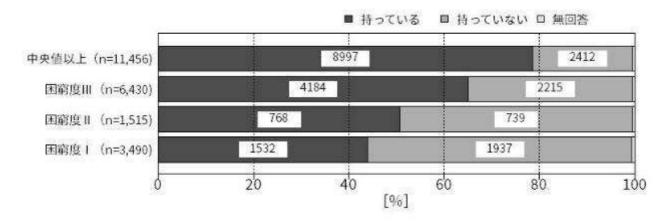
## 困窮度別に見た、自家用車の所有(保護者票 問5)

## <大阪市 24 区>



## <大阪市西区>

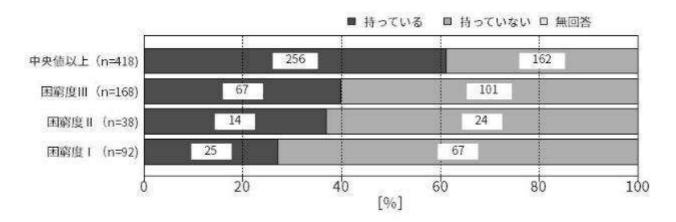
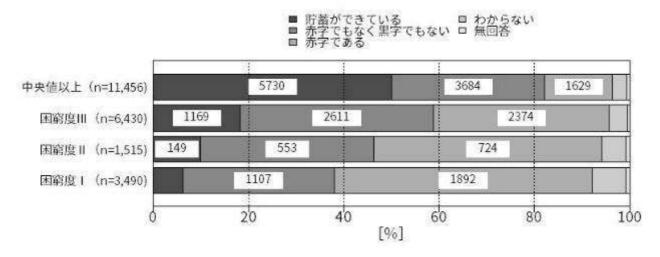


図 120. 困窮度別に見た、自家用車の所有

困窮度別に自家用車の所有を見ると、中央値以上群では、車を所有している世帯が 61.2%であったのに対して、困窮度 I 群では 27.2%である。

## 困窮度別に見た、家計状況(保護者票 問6(1))

## <大阪市 24 区>



## <大阪市西区>

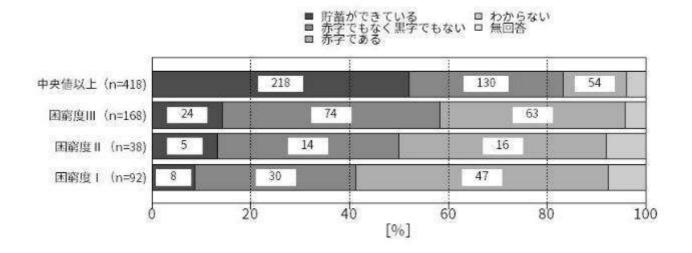
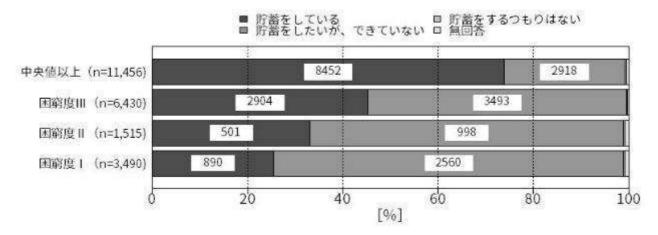


図 121. 困窮度別に見た、家計状況

困窮度別に家計の状況を見ると、中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、12.9%であったのに対して、困窮度 I 群では、51.1%である。

## 困窮度別に見た、子どものための貯蓄(保護者票 問 6(3))

## <大阪市 24 区>



## <大阪市西区>

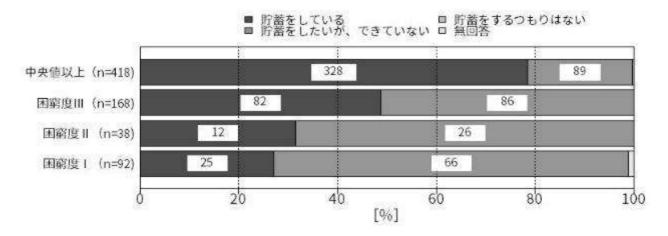
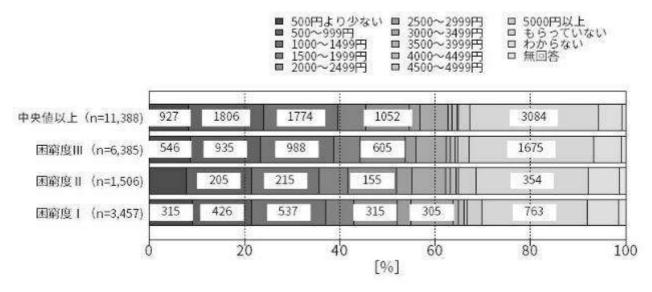


図 122. 困窮度別に見た、子どものための貯蓄

困窮度別に子どものための貯蓄を見ると、中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が78.5%であったが、困窮度 I 群では27.2%であり、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答する割合が71.7%であった。

## 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布(子ども票 問20(1))

#### <大阪市 24 区>



### <大阪市西区>

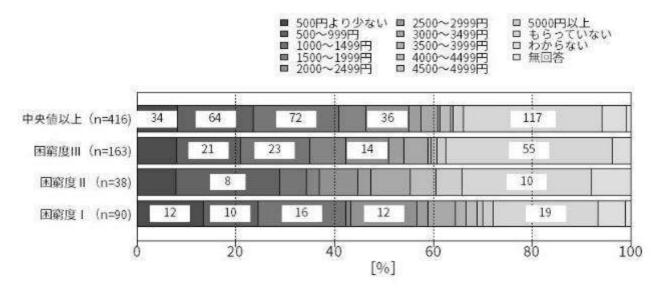
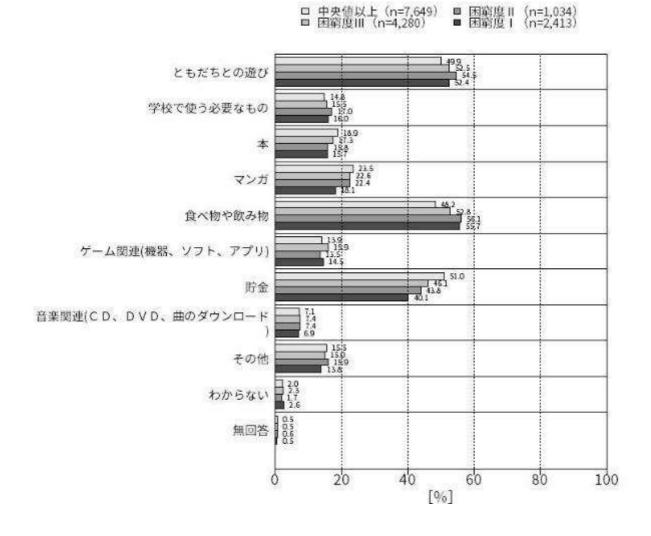


図 123. 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布

困窮度別におこづかいの金額分布を見ると、困窮度による大きな違いは見られない。おこづかいを もらってはいるが、その使途や必要な物は親に購入してもらっているか、など詳細をみる必要があ る。

## 困窮度別に見た、おこづかいの使い方(子ども票 問20(3))

## <大阪市 24 区>



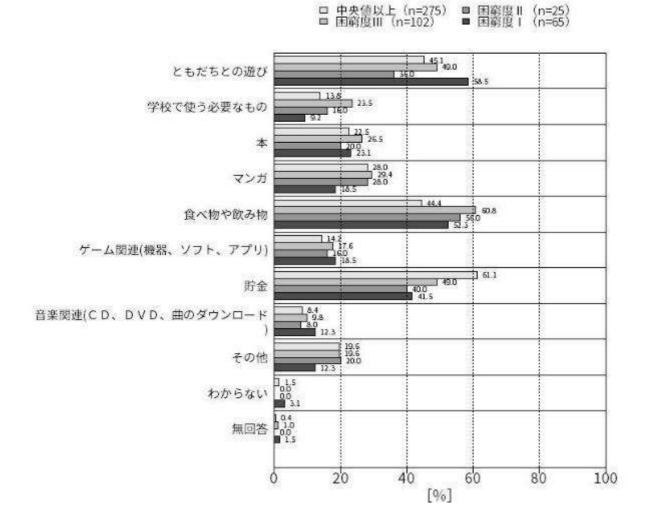


図124. 困窮度別に見た、おこづかいの使い方

困窮度別におこづかいの使い方を見ると、「貯金」が中央値以上群 61.1%であったのに対して、困窮度 I 群では 40.0%、困窮度 I 群では 41.5%であった。

#### <経済状況に関する考察>

今回の調査では、経済的状況と生活上の困難の経験との間に関係があることが示されている。本調査で用いた経済的理由による生活上の困難に関する質問項目は、現代日本において「通常であれば可能な生活」を想定して設定している。中央値以上の群でそれに該当する世帯は 42.1%であったのに対し、困窮度が深刻になるにつれて該当世帯の割合は下がり、困窮度 I の群では 8.7%にとどまった。一方、「電気・ガス・水道などが止められた」、「電話(固定・携帯)などの通信料の支払いが滞ったことがある」、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」など、住居やライフラインに関する生活面の困難を感じた世帯は、中央値以上の群では 1.5%未満であるのに対し、困窮度 I の群では、それぞれ、8.7%、9.8%、9.8%という回答になっている。この質問項目は概ね半年という期間を限定した質問であるにも関わらず、回答に大きな差が生じていることは生活面での格差を表しているといえるだろう。さらに「国民年金の支払いが滞ったことがある」と回答した困窮度 I の群の世帯は 22.8%にのぼった。現在だけでなく、将来においても保護者が経済的に困難な状態に陥る可能性を示唆しているといえるだろう。生活上の困難は、心理面にも影響していることも結果からは明らかになっている。「生活の見通しが立たなくて不安になったことがある」と回答した世帯は、中央値以上の群では 7.7%であったのに対し、困窮度 I の群では 46.7%であった。

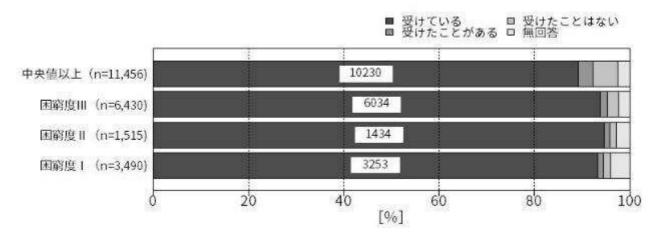
世帯の経済状況は子どもの生活にも影響を与えていることも確認することができた。「子どもを医療機関に受診させることができなかった」と回答した世帯は、困窮度 I の群では 2.2%であったのに対して、中央値以上の群では 0.2%であった。「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」と回答した世帯は、困窮度 I の群では 15.2%で、中央値以上の群では 3.6%であった。どちらの項目も、中央値以上の群と困窮度 I の群で大きな差があり、世帯の経済格差が子どもを取り巻く状況の格差につながっていることがわかる。

学習の機会においても同様のことがいえる。「子どもの進路を変更した」世帯は、中央値以上の群では 0.2%にとどまったものの、困窮度 I の群では 7.6%にのぼった。「子どもを学習塾に通わすことができなかった」世帯は、中央値以上の群では 4.1%、困窮度 I の群では 18.5%であった。学力ではなく、家庭の経済状況によって学習の場や機会が制限されてしまっていることが示唆されている。さらに、「子どもの将来のために貯蓄をしている」割合は、中央値以上の群では 78.5%であったのに対し、困窮度 I の群に属する 71.7%の世帯が、「貯蓄をしたいができていない」と回答しており、この格差は今後も固定化・拡大する可能性がある。学習機会以外にも、「子どものための本や絵本の購入」、「習い事」や「家族旅行」など余暇活動を経済的な理由によって断念する世帯の割合は、中央値以上の群と困窮度 I の群とでは差が生じている。中央値以上の群では、それぞれ 1.4%、3.3%、8.9%であったのに対して、困窮度 I の群では 6.5%、23.9%、40.2%と少なくとも 4 倍以上の差が見られた。また、「どれにもあてはまらなかった」と回答している世帯が、中央値以上の群では、70.8%に達している。

## (2) 家庭状況 (制度等)

## 困窮度別に見た、児童手当(保護者票 問30(3)①)

## <大阪市 24 区>



## <大阪市西区>

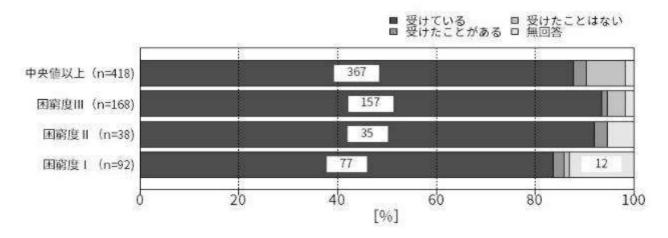
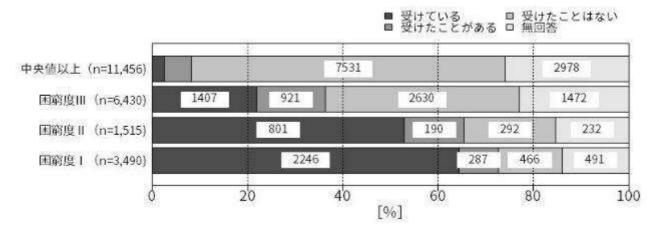


図 125. 困窮度別に見た、児童手当

児童手当は多くの世帯が受給していた。困窮度別に児童手当の受給率を見ると、困窮度 I 群において「受けている」の割合は83.7%であった。

## 困窮度別に見た、就学援助費(保護者票 問30(3)②)

## <大阪市 24 区>



## <大阪市西区>

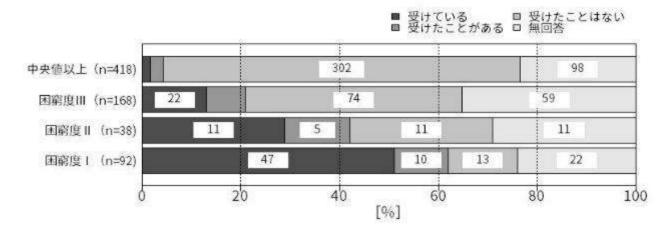
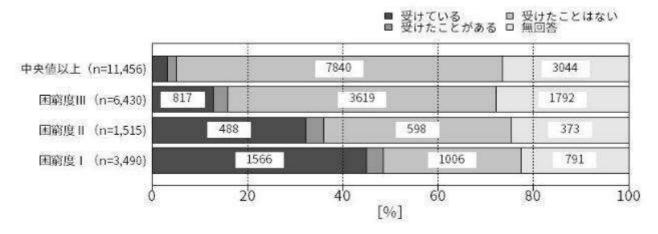


図 126. 困窮度別に見た、就学援助費

困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

## 困窮度別に見た、児童扶養手当(保護者票 問30(3)③)

#### <大阪市 24 区>



### <大阪市西区>

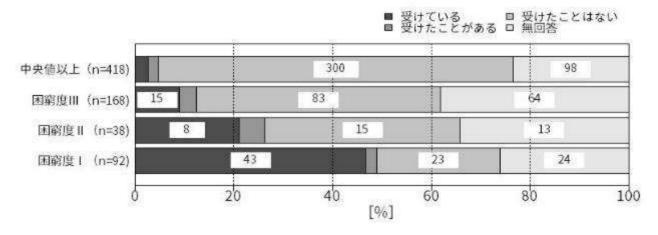


図 127. 困窮度別に見た、児童扶養手当

困窮度別に児童扶養手当の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

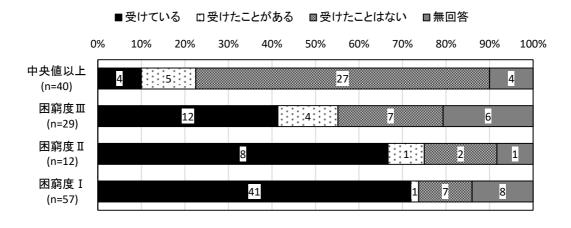
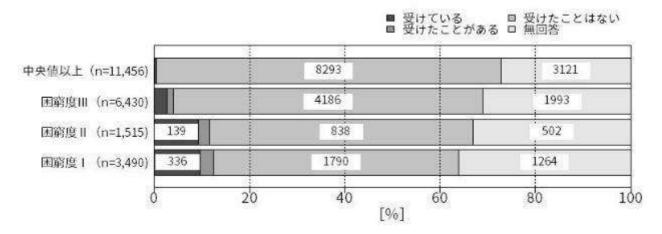


図 127 の補足図. 困窮度別に見た、児童扶養手当(ひとり親)

# 困窮度別に見た、生活保護 (保護者票 問30(3)⑤)

## <大阪市 24 区>



## <大阪市西区>

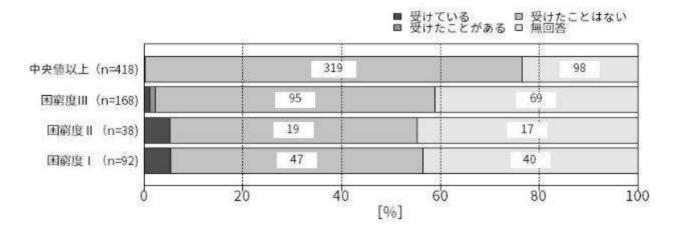
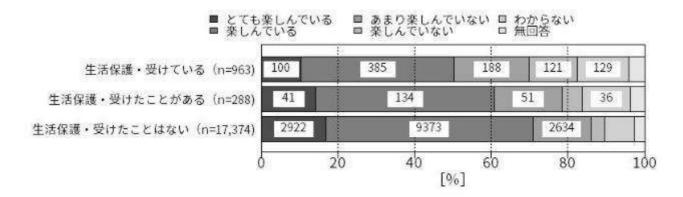


図 128. 困窮度別に見た、生活保護

困窮度別に生活保護の受給率を見ると、困窮度 I 群においては「受けている」と回答した人は 5.4% であった。困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている傾向にあった。

生活保護の受給別に見た、心の状態(生活を楽しんでいるか) (保護者票 問30(3)(5) × 保護者票 問25(1))

#### <大阪市 24 区>



## <大阪市西区>

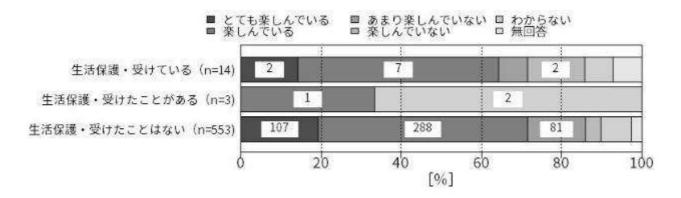


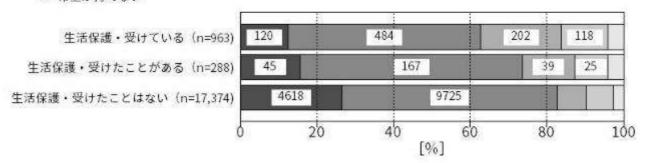
図 129. 生活保護の受給別に見た、心の状態(生活を楽しんでいるか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、生活を「楽しんでいない」という回答が14.3%、生活保護を受けたことがない世帯では3.8%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態(将来への希望) (保護者票 問30(3)(5) × 保護者票 問25(2))

## <大阪市 24 区>

■ 希望が持てる ■ 希望が持てるときもあれば、持てないときもある □ 無回答 ■ 希望が持てない



## <大阪市西区>

■ 希望が持てる ■ 希望が持てるときもあれば、持てないときもある □ 無回答 ■ 希望が持てない

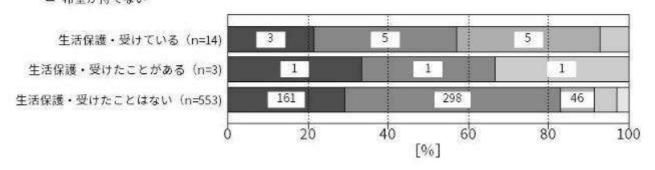
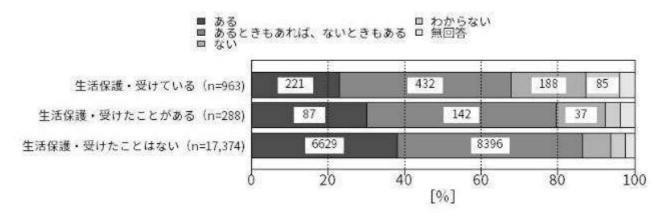


図 130. 生活保護の受給別に見た、心の状態(将来への希望)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、将来に対して「希望が持てない」という回答が35.7%、生活保護を受けたことがない世帯では8.3%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態 (ストレス発散できるもの) (保護者票 問30(3)⑤ × 保護者票 問25(3))

#### <大阪市 24 区>



## <大阪市西区>

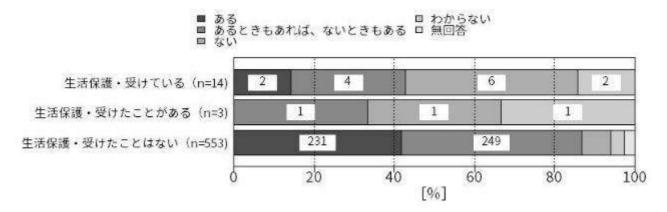
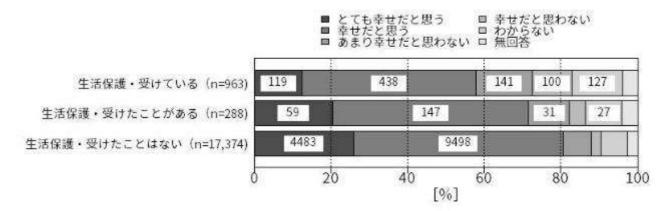


図 131. 生活保護の受給別に見た、心の状態 (ストレス発散できるもの)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、ストレスを発散できるものが「ない」という回答が 42.9%、生活保護を受けたことがない世帯では 7.2%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態 (幸せだと思うか) (保護者票 問30(3)(5) × 保護者票 問25(4))

#### <大阪市 24 区>



### <大阪市西区>

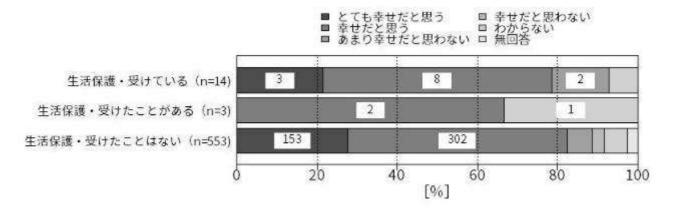
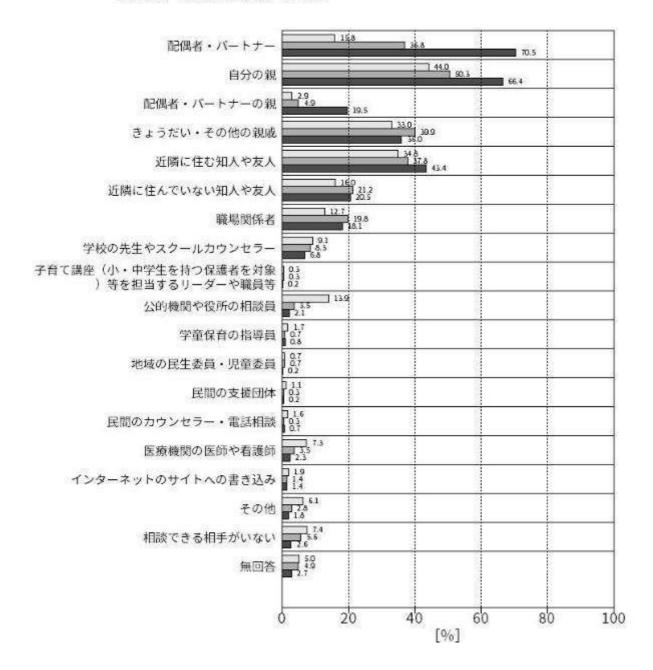


図 132. 生活保護の受給別に見た、心の状態(幸せだと思うか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、「幸せだと思わない」という回答が該当なし、生活保護を受けたことがない世帯では 3.1%であった。

<大阪市 24 区>

□ 生活保護・受けている (n=963) ■ 生活保護・受けたことがある (n=288) ■ 生活保護・受けたことはない (n=17,374)



□ 生活保護・受けている (n=14) □ 生活保護・受けたことがある (n=3) ■ 生活保護・受けたことはない (n=553)

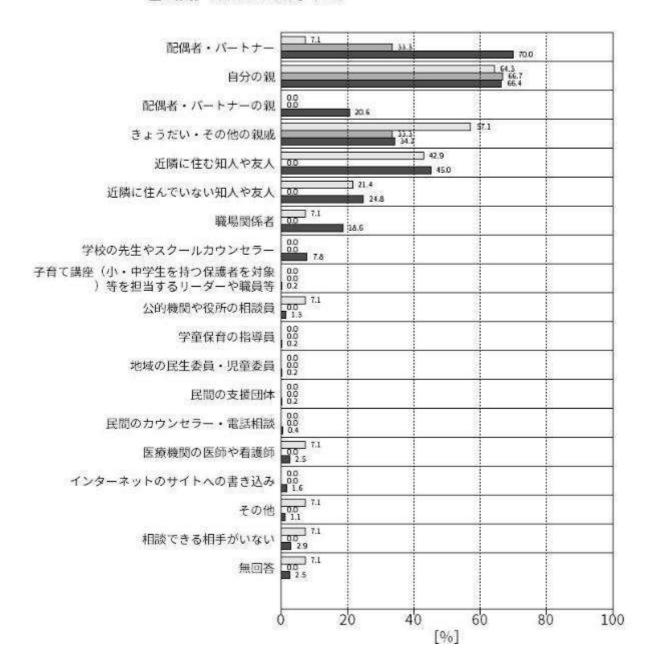
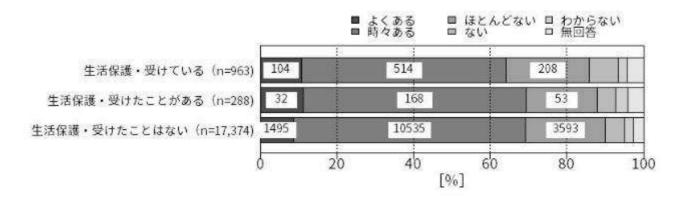


図 133. 生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、「相談できる相手がいない」という回答が7.1%、生活保護を受けたことがない世帯では2.9%であった。

生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと (保護者票 問30(3)(5) × 保護者票 問27)

### <大阪市 24 区>



## <大阪市西区>

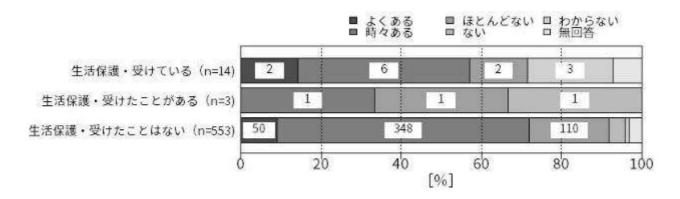
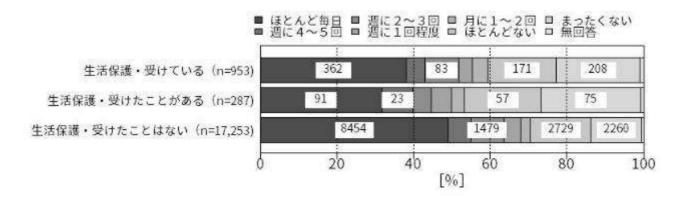


図 134. 生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」と回答した人が14.3%、生活保護を受けたことがない世帯では9.0%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人と朝食を食べるか) (保護者票 問30(3)⑤ × 子ども票 問10①)

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

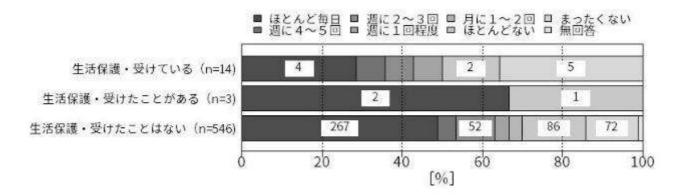
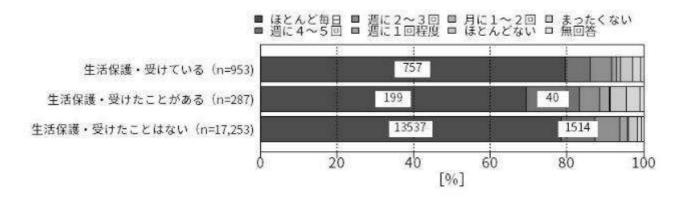


図 135. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と朝食を食べるか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べることが「まったくない」と回答した子どもが 35.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 13.2%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人と夕食を食べるか) (保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10②)

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

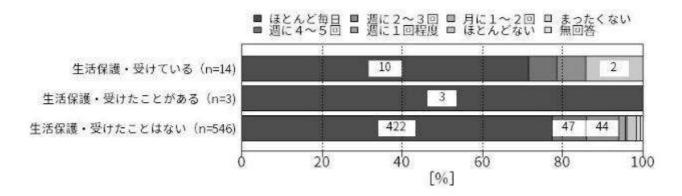
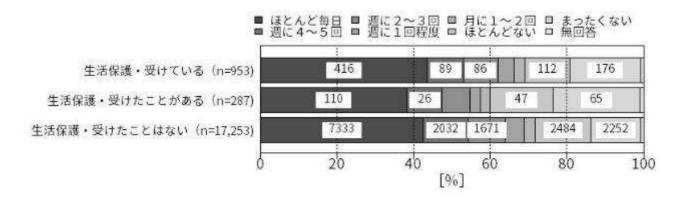


図 136. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と夕食を食べるか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べることが「まったくない」と回答した子どもが該当なし、生活保護を受けたことがない世帯では 0.9%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人に朝、起こされるか) (保護者票 問30(3)⑤ × 子ども票 問10③)

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

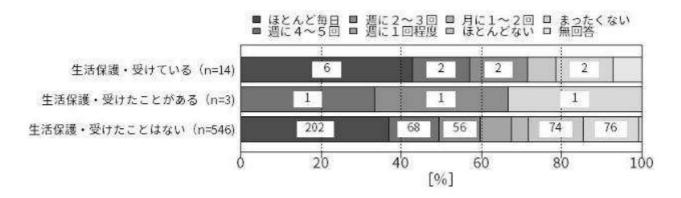
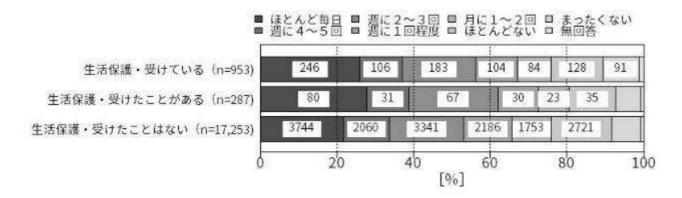


図 137. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人に朝、起こされるか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(家の手伝いをするか) (保護者票 問30(3)⑤ × 子ども票 問10④)

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

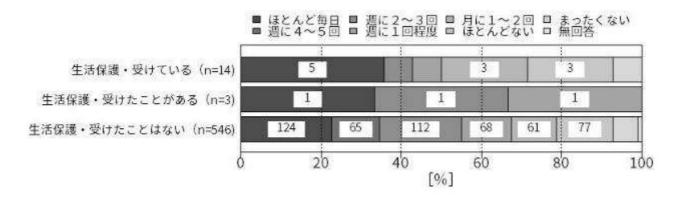
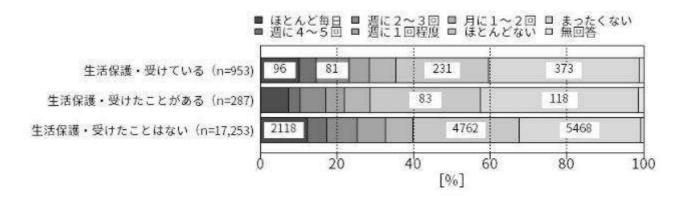


図 138. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (家の手伝いをするか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの手伝いをすることが「まったくない」と回答した子どもが 7.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 6.2%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (保護者票 問30(3)⑤ × 子ども票 問10⑤)

#### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

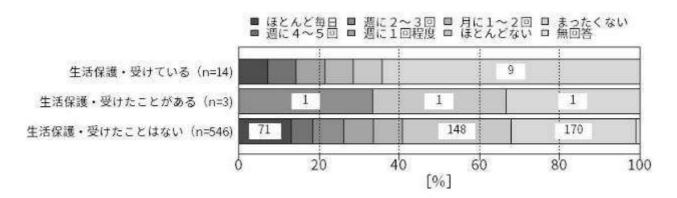
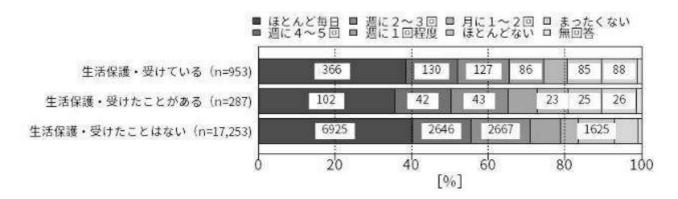


図 139. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人に宿題をみてもらうか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人に宿題(勉強)をみてもらうことが「まったくない」と回答した子どもが 64.3%、生活保護を受けたことがある世帯では 33.3%、生活保護を受けたことがない世帯では 31.1%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑥)

#### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

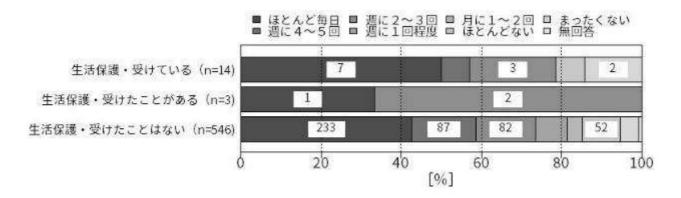
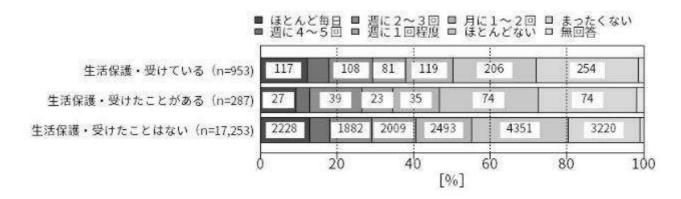


図 140. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と学校の話をするか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すことがが「まったくない」と回答した子どもが14.3%、生活保護を受けたことがない世帯では4.6%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 30(3)(5) × 子ども票 問 10(7))

#### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

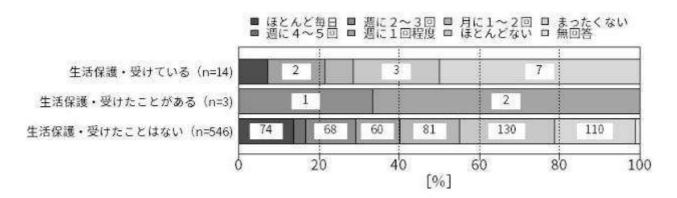
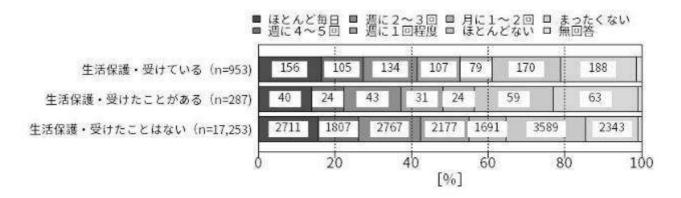


図 141. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったくない」と回答した子どもが 50.0%、生活保護を受けたことがない世帯では20.1%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 30(3)(5) × 子ども票 問 10(8))

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

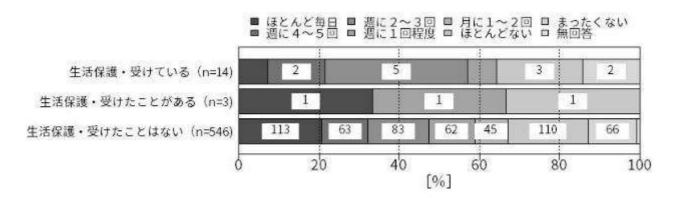
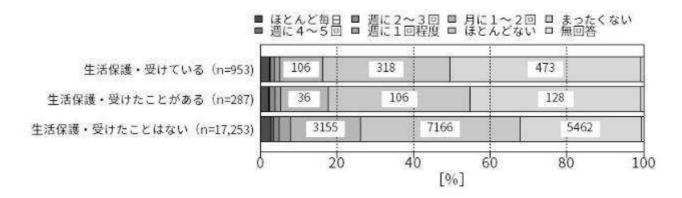


図 142. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と社会のできごとを話すか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話し合うことが「まったくない」と回答した子どもが14.3%、生活保護を受けたことがない世帯では12.1%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人と文化活動をするか) (保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑨)

#### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

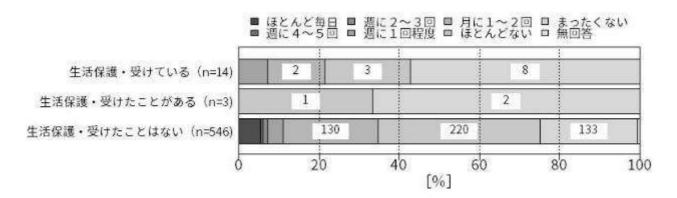
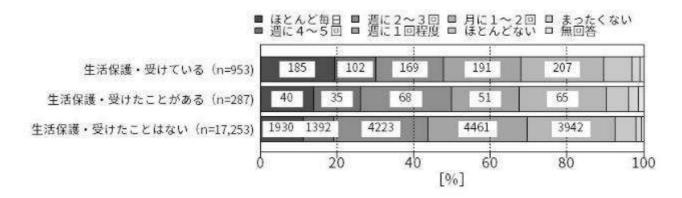


図 143. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と文化活動をするか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と文化活動をすることが「まったくない」と回答した子どもが 57.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 24.4%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人と一緒に外出するか) (保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑩)

#### <大阪市 24 区>



#### <大阪市西区>

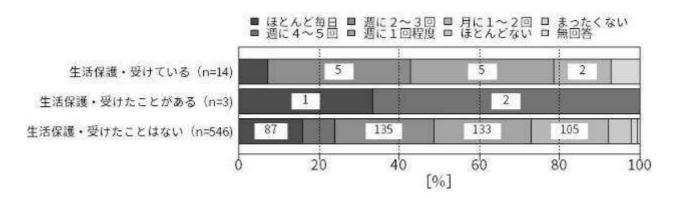
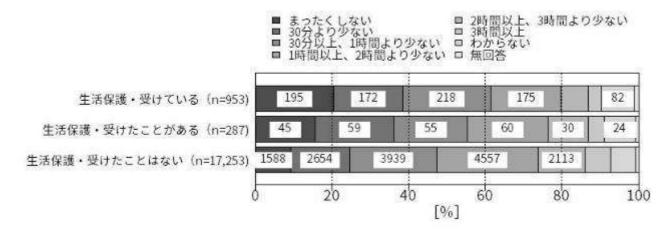


図 144. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と一緒に外出するか)

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に外出することが「まったくない」と回答した子どもが 7.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 1.6%であった。

#### <大阪市 24 区>



### <大阪市西区>

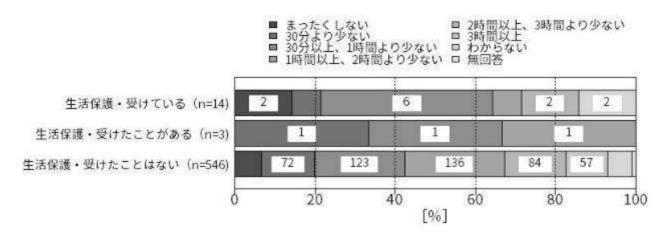
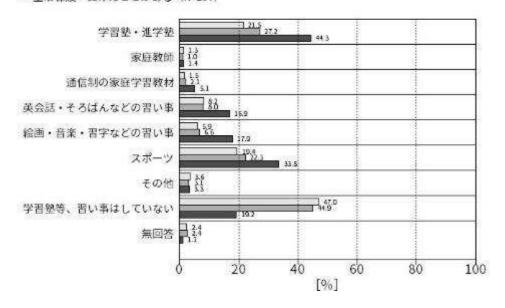


図 145. 生活保護の受給別に見た、授業以外の勉強時間

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、授業時間以外に勉強を「まったくしない」と回答した子どもが 14.3%、生活保護を受けたことがない世帯では 6.6%であった。

### <大阪市 24 区>





### <大阪市西区>



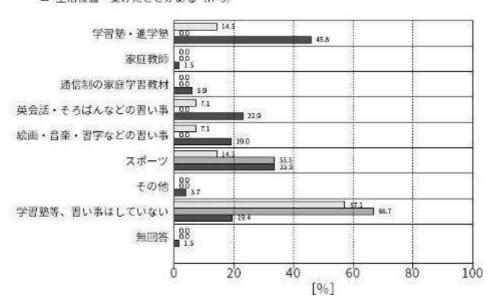


図 146. 生活保護の受給別に見た、学習塾等の利用状況

生活保護を受けている世帯、生活保護を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、「学習塾等、習い事はしていない」と回答した子どもが 57.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 19.4%であった。